

重点戦略Ⅰ

茶・柑橘等の 産地収益力を強化する 基盤整備の推進

- 茶・柑橘等の樹園地は、急傾斜・小規模な園地が点在している地域が多く、農作業に多大な労力を要していることから、生産性及び収益性を向上させるため基盤整備の実施が不可欠となっています。
- 国産野菜の消費ニーズや加工・業務用としての需要が高いレタス等の露地野菜の生産拡大を図るため、水田の暗渠排水や区画整理等の整備により、汎用化・畑地化を進める必要があります。

①品目別基盤整備プロジェクトの推進

KPI (2020年) 累計369ha ▶ (2025年) 累計1,659ha

本県の主要作物である茶や柑橘、高収益作物（野菜等）を対象として、生産性と収益性の向上・低コスト化に向けた、区画整理、暗渠排水整備等の品目別基盤整備プロジェクトを推進するための事業に着手した面積

*****しずおか型品目別基盤整備プロジェクト*****

『茶』『柑橘』『野菜等』の産地収益力を強化するため、品目や産地に応じた最適な基盤整備を戦略的に推進



茶産地構造改革基盤整備プロジェクト

KPI (2020年) 累計84ha ▶ (2025年) 累計360ha

静岡茶の再生に向けた茶産地構造改革を推進するため、茶園の区画整理や耕作道整備を実施する事業に着手した面積

- 県内の茶生産は、茶価の低迷やリーフ茶需要の落ち込みにより厳しい経営状況が続いており、茶農家数は2010年から2020年の10年間で約6割減少し、産出額も約4割減少しています。
- こうした状況から、今後も本県の茶業を継続していくためには、ドリンク原料茶等への生産の転換や、需要増が見込まれる有機碾茶等の生産拡大など、担い手の経営戦略に基づき、スピード感を持って基盤整備を進めていく必要があります。
- このため、GISにより傾斜度や区画形状等の条件から事業効果の高い区域を選定し、地域特性に応じた区画整理等の基盤整備を戦略的かつ迅速に進め、乗用型管理機等の導入による低コスト化や農地集積・集約化を加速化し、「茶産地構造改革基盤整備プロジェクト」を推進します。

●茶園の区画整理



農地中間管理機構関連農地整備事業 静波地区（牧之原市）